笠鉾から祭りの秘密に迫る
秋季特別展覧会「大笠鉾展」

▲笠鉾本蝶蕪の解説を聞く来場者

10月20日、秋季特別展覧会「大笠鉾展」が市立博物館で始まりました。

この展覧会は、八代妙見祭ユネスコ無形文化遺産登録を記念して、「笠鉾」をキーワードにそのルーツの拡がりを紹介し、それぞれの地域の祭りの秘密に迫る内容となっています。会場では、八代妙見祭の笠鉾本蝶蕪や20年に一度開催する三ツ山大祭（兵庫県姫路市）の山の伝承のために造られたミニチュア、東濵町の傘鉾（長崎県長崎市）など54点を展示しています。

開会式では、同博物館の松井葵之館長が「各地の祭礼の歴史、文化を見直すきっかけになってほしい」とあいさつ。会場を訪れた人たちは、各地の祭礼の出し物を興味深く鑑賞していました。

環境について学ぶ
氷川ダム親子環境学習デイキャンプ

▲ダムの構造や設備について学びました

10月29日、泉町の氷川ダムで氷川ダム親子環境学習デイキャンプが開催され、約20人が参加しました。

これは、次世代のためにがんばろ会が自然体験型の環境教育をとおして、自然界の生態系の繋がりに水環境の重要性を理解してもらおうと取り組んでいるものです。

今回は、熊本高等専門学校や崇城大学の先生、学生などがボランティアスタッフとして活動し、ダム湖監査廊の見学やかき殻を利用した水質浄化活動、ダム湖周辺の自然環境についての学習会などを行いました。参加した子どもたちは、ダムの水の水質検査や外来魚の捕獲方法の実演に興味津々で、積極的に質問をして環境に関する知識を深めました。

町中が「笑顔」でいっぱいに
2017 八代市さかもと国際児童画展

▲世界中の子どもたちから届いた笑顔の絵を展示

11月3日、さかもと館・道の駅さかもとで2017八代市さかもと国際児童画展のオープニングセレモニーが行われました。

これは、熊本地震からの復興を願い、世界中の子どもたちから笑顔の絵を募集し、町中を笑顔でいっぱいにしようと坂本住民自治協議会が企画したもので、11月3日～19日までさかもと館・道の駅さかもと、坂本コミュニティセンターなど坂本町内の7ヵ所の施設に応募作品と青葉国際児童画展の所蔵画をあわせて1300点が展示されました。

坂本住民自治協議会の森下政孝会長は、「子どもたちから元気をもらった。たくさんの笑顔を発信して、世界中の人々との交流を深めたい」と話しました。

農林水産大臣賞受賞
鏡町漁業協同組合カキ生産部会

▲農林水産大臣賞受賞の喜びを語るカキ生産部会の皆さん

11月14日、鏡町漁業協同組合カキ生産部会会長の森口秀幸さんら関係者が市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に全国豊かな海づくり大会福岡大会で農林水産大臣賞を受賞したことを報告しました。

同組合では、八代海の環境改善と漁業生産の活路を見いだすため平成25年2月に同部会を発足し、マガキの養殖により海域の浄化・有害赤潮抑制に取り組んできました。

森口部会長は「とても栄誉ある賞をいただいたので、新たな活動にも取り組み、次の世代にも受け継いでいきたい」と抱負を語りました。

また、年々人気が高まっている鏡オイスターハウス（カキ小屋）は12月中旬にオープン予定です。

バドミントン少年男子　優勝
国民体育大会結果報告

▲優勝の報告をした八代東高校のメンバー

国民体育大会「愛顔 つなぐえひめ国体」にバドミントン少年男子で出場した八代東高校の小本大佑さん（3年）、田中湧士さん（3年）、森田新太郎さん（3年）が10月18日、市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に結果を報告しました。

小本さんはシングルス、田中さんと森田さんはダブルスに出場。決勝は、2対0で宮崎県に勝利し、県勢は同種目で19年ぶり6度目の優勝を果たしました。田中さんは「試合で自分たちのプレーができました。熊本県選手団全員の気持ちが重なって優勝を成し遂げることができたので、嬉しいです」と喜びを語りました。

長年の活動を称える
人権擁護委員退任に伴う感謝状伝達式

▲感謝状を手にする佐藤タエさん（中央右）

9月30日をもって人権擁護委員を退任した佐藤タエさんに、法務大臣から感謝状が贈られ、10月18日、市役所鏡支所で感謝状の伝達式が行われました。

佐藤さんは、平成17年から12年9ヵ月に渡り本市の人権擁護委員を務め、地域住民の人権擁護と人権尊重の普及・高揚に尽力。中でも、「思いやりの心や優しい心」、「命の大切さ」「ルールやマナー」、「いじめ」などについて理解を深めてもらうことを目的とした小学校や保育園・幼稚園などでの人権教室に力を入れて活動しました。

市民の模範に
環境美化推進善行者表彰式

▲環境美化推進善行者表彰を受けた皆さん

10月17日、やつしろハーモニーホールで平成29年度環境美化推進善行者表彰式が行われました。これは市の環境美化の推進に貢献し、住みよいきれいな地域社会づくりに尽力している個人または団体に対して表彰を行うものです。今年度は個人の部で20人、団体の部で9団体が表彰されました。

町内や公民館の清掃、草取り、樹木の剪定を率先して行っている小田康政さん（海士江町）は「前任者を応援したいと思い始めました。表彰していただきありがとうございます」と話しました。

楽しい給食
植柳小学校いずかし給食

▲みんなで食べる給食はおいしい

10月26日、植柳小学校でいずかし交流給食が行われ、児童は同校敷地内にある栽柳園の一角、いずかしの森で低学年と高学年との異学年同士の交流を深めました。このいずかしの森には15年前に秀岳館高校から寄贈されたベンチがあり、7月3日に新しいベンチが寄贈されたことをきっかけに交流給食が行われました。

日直の号令のもと交流給食がスタートすると青空の下、参加者は仲良く給食を楽しみました。交流を楽しんだ粟津結さん（6年生）は「他の学年と一緒に給食を食べる機会がないので、うれしかったです」と話しました。

全国の花火師が技を競う
第30回やつしろ全国花火競技大会

▲色とりどりの花火が観客を楽しませました

10月21日、第30回やつしろ全国花火競技大会が球磨川河川緑地で開催されました。

小雨が降る中、全国から集まった29業者がスターマインや5号玉、10号玉の各部門で技を競い、カウントダウン花火やミュージック花火など約1万5000発の花火が夜空を彩りました。審査の結果、スターマインの部では塚本花火工業（福岡県）の「さくら～卒業できなかった君へ～」が優勝。10号玉の部では、紅屋青木煙火店（長野県）の「昇り曲付き 四重芯変化菊」、5号玉の部では山内煙火店（山梨県）の「昇曲導付八重咲彩色の花」が優勝しました。

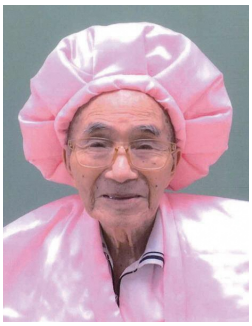
子どもの健やかな成長を願って
竹原神社稚児土俵入り

▲力士に抱えられ土俵入りした赤ちゃん力士たち

10月19日、竹原神社で「稚児土俵入り」が行われ、県内外から164人の生後6カ月～3歳未満の赤ちゃんが参加しました。

これは、昭和50年から始まった竹原神社の秋季大祭の恒例行事で、子どもの健やかな成長と無病息災を願うものです。八代市相撲連盟や文徳高校相撲部の力士が、紅白のねじり鉢巻と化粧まわしを身につけた赤ちゃんを抱え土俵入り。「よいしょ、よいしょ」の掛け声に合わせ四股を踏むと、大声で泣き出す子もいれば、力士の腕の中ですやすやと眠る子もいて、その愛らしい姿に境内は和やかな雰囲気に包まれました。

100歳おめでとうございます



住吉　清一さん
（本町二丁目）
大正6年11月15日生

17歳から80歳まで時計の修理業に従事していた清一さん。26歳で結婚し、6人の子宝に恵まれました。最近の楽しみは食べることで、特にうなぎが好物です。
素直な性格だという清一さんの長寿の秘訣は「くよくよ考えないこと」。

松下　スヱノさん
（鏡町）
大正6年11月3日生

鏡町に生まれ、2人の子どもに恵まれたスヱノさん。若い頃は米作りや畑仕事、料亭の料理人としてよく働いていました。今も毎朝ベッドで体操をかかさず、よくしゃべり、歌うそうです。
長寿の秘訣は「若い頃にとにかく体を動かしていたこと」。

藤坂　靜子さん
（坂本町）
大正6年11月1日生

坂本町で生まれ育った靜子さん。若いころから健康には人一倍気を遣っており、きちんとした食生活で歯磨きも丁寧にしているため、現在も全部自分の歯です。
長寿の秘訣は「食事に気を遣って、自分の歯でしっかり食べてきたこと」。

安田　アキエさん
（鏡町）
大正6年10月20日生

鏡町に生まれ、若い頃の職業は家政婦だったアキエさん。ピアノや大正琴を上手に演奏し、歌うことも好きです。また、言いたいことは、はっきり言う性格でストレスを溜めないそうです。
長寿の秘訣は「好き嫌いなく何でも食べること」。

八代港を満喫
みなと八代フェスティバル

▲八代港に寄港した海上自衛隊護衛艦きりさめ

11月5日、「第30回みなと八代フェスティバル」が八代外港で開催され、海上保安庁巡視船「おおすみ」の体験航海・船内見学、国土交通省「海煌」の体験乗船、モーターボート・ヨットの体験クルージングなどを楽しみました。
海上自衛隊護衛艦「きりさめ」の艦内見学では、自衛官らが護衛艦の装備や仕事内容について説明。見学者も熱心に耳を傾けました。このほか、県南グルメや物産、警察・消防・海事官公庁による展示、八代亜紀さんも来場するなど、県内外の家族連れなど約1万6000人で賑わいました。

世界三大クルーズ会社
「マジェスティック・プリンセス」初寄港

▲入港したマジェスティック・プリンセス

11月1日、アメリカのプリンセス・クルーズ社が運行する「マジェスティック・プリンセス」（総トン数約14万トン、全長330m）が八代港に初めて寄港しました。上海からの乗船客約3900人は下船後約100台のバスに乗り込み、県内各地の観光や買い物を終日楽しみました。
船内で行われた歓迎セレモニーでは、中村博生市長が「震災からの復興に向けて一丸となって一歩ずつ取り組んでいる中、寄港は夢と希望を与えてくれるもので嬉しく思っています」と歓迎し、同客船の船長らへ花束と記念品などを贈りました。

ものづくりの学習に役立てて
YKKAPから小学生向け学習教材寄贈

▲小学生向け学習教材を寄贈したYKKAP九州製造所の阿部浩司所長（左）

10月31日、YKKAP九州製造所の阿部浩司所長が市役所鏡支所を訪れ、小学生向け学習教材を中村博生市長に手渡しました。
これは、窓への関心を高め、住環境における窓の重要性についての啓蒙を目的として、小学生向け学習教材学研〝まんがでよくわかるシリーズ〟「窓のひみつ」をものづくりの学習に役立ててもらおうと市内の小学校に110冊寄贈しました。この本は、「窓」の役割や種類、その製造工程など、「窓」に関するさまざまな情報を健康や環境などの関係性も交えながらわかりやすく伝える内容となっています。